



創立150年への第一歩、それが今大会の位置づけ。

2005年大会の趣旨と期待

ー今年の連合三田会大会への期待をお願いします。

安西 連合三田会大会は、塾員の方々が本当に楽しみにしている大会です。年に一度、慶應義塾という母校をとにもする仲間が、旧交をあたためられる象徴的な場といえるでしょう。

特に今年は、3年後に迎える創立150年という節目への第一歩として、とても意味深い場となると捉えています。日本も世界も大きく変わろうとしているこの時代に、30万塾員の皆さまとともに、慶應義塾は150年近くの伝統と福澤先生の精神を、新しい形で社会に訴えていかなければなりません。今回の大会はその大きな出発点となってほしいですね。

植村 2005年連合三田会大会実行委員長として、今大会で特に充足させようと考えたのは次の三点です。まず「塾員懇親の場」。慶應義塾の素晴らしさを、老若男女あらゆる方々に楽しんで

いただける企画を用意しました。一緒にお越しになれる塾員のお子さんやお孫さんまで、慶應義塾の素晴らしさを感じていただければ願っています。二点目は「塾員結束の場」。さまざまな年次やクラブ・サークルなどが参加し、結束を新たにする場を提供しています。そして、今大会で特に意識したのが、三点目の「発信の場」。これは、後でお話が出ると思いますが、今大会が創立150年記念事業における助走の場であると位置づけて、塾員30万人だけでなく、外部に向けても慶應義塾を発信していく好機と考えたからです。そのために、これまでになかった斬新な企画も立案しました。

創立150年記念事業との連動

ー「未来への先導者たち」という大会コンセプトテーマに、その一端がうかがえます。

安西 創立150年記念事業の基本テーマは「未来への先導」ですから、テ

ーマも連動感がありますね。

植村 私はたまたま創立150年記念事業準備委員会の委員も拝命しておりまして、連合三田会とのブリッジとしての役割を果たさせて戴けるのはとても有り難いことだと感謝しています。準備委員会の場で、塾長や委員の皆さんと議論を重ねてきた記念事業の持つ意味を、少しでも今大会に反映できればと考えてきました。

安西 創立150年記念事業は、福澤先生が1858年に塾を創立されて以来、塾生、塾員、教職員、関係者の方々が苦勞して育ててきたものを、もう一度皆で共有し合って、結束を強めるまたとない機会です。ただしそこでの結束とは、決して中へ閉じこもるものではなく、慶應義塾がさらに社会へ大きく働きかけていくための原動力になると思うのです。

「未来への先導」の意味とは

安西 福澤先生は『慶應義塾の目的』の中で、「全社会の先導者たらんことを欲するものなり」と言われましたが、慶應義塾は日本の近代化に貢献し、その後も戦後、そして現在に至るまで、常に社会の先導者として歩んできました。創立150年を迎えるにあたり、未来への先導は慶應義塾にとってこれから新しく、かつ大きな役割となっていくことでしょう。

今大会は、未来への先導者たちにメッセージを発信するという意味とともに、私たち一人ひとり、そして慶應義塾が一丸となって未来への先導役を務めるという意味が込められています。

植村 政治、経済だけではなく、さまざまな分野で日本と世界を先導する人間を育て、輩出することは慶應義塾の大きな使命だと思います。こうした未来への先導者たらんという気概を持って、150年の記念事業では、学校と塾員、塾生という三者が一体となっ

て盛り上げていかななくてはならない。今大会では、塾員の立場から前向きに参画していこうという姿勢を確認したいのです。

安西 福澤精神をもう一度見つめなおして、未来への先導者たるべき原点を作りたい。これが150年記念事業でもひとつの核となります。

慶應義塾は実社会で活躍する人材を数多く輩出してきました。こうした伝統を活かして、あらゆる分野で社会との連携に取り組んでいくことが大事です。さらに記念事業は、150年目にあたる2008年の1年間だけで行うものではありません。今年から10年のスパンで取り組むことになっている大事業です。その一環としてキャンパス環境の充実も考えています。学生がよりよい質の教育、研究、医療にかかわるためにも、さまざまな社会貢献を実現していくためにも、国際的にレベルの高い学塾としての場を作り上げていかなければなりません。福澤精神の原点をさらに未来へ発展させ得る事業にしていきたい。

植村 150年を機に、慶應義塾のよき伝統をしっかりと受け継ぐ。そして、150年を機に革新の気風を巻き起こす。こうした視点から塾員も企業も積極的に参画していき、インフラの整備を進めていけば、母校への貢献と同時に日本や世界の平和と繁栄に貢献できるという、二つの意味が生まれるのではないのでしょうか。(→次頁へ)

二〇〇五年大会開催にあたって、
塾長に大会実行委員長との対談をお願いしました。

